

かめやま KAMEYAMA 市議会だより

第16号

平成20年1月1日

発行・三重県亀山市議会

編集・市議会編集委員会

三重県亀山市本丸町577

☎(0595)84-5059

ホームページ

<http://www.city.kameyama.mie.jp/gikai/>

年頭のごあいさつ

「和」を基本に議会の役割を

果たすため全力



議長 大井 捷夫
副議長 池田 依子



副議長 池田 依子



議長 大井 捷夫

新年おめでとうございます。皆様には、輝かしい新春を健やかに迎えられましたこととお慶び申し上げます。旧年中は、市議会の活動に對しまして、温かいお励ましとご協力を賜わり、心より感謝を申し上げます。私どもは、昨年十一月十二日の臨時会におきまして、議

員各位のご推挙により、議長並びに副議長の要職に就任することになりました。誠に身に余る光栄でありました。誠に責任の重さを痛感いたしております。浅学非才ではありますが、市政の伸長と皆様の暮らしの向上を目指しまして、懸命の努力を傾注する所存でございます。さて、これからの地方自治を取り巻く環境は参議院の与野党逆転、政権の交代でかなりの変化があると思えますが亀山市のあり方、進むべき道の基本は変わりないと私どもは考えております。それは、今、亀山市に居住する皆さんが何時までも住み続けたい、市外の皆さんが「亀山はすばらしいな！出来れば移住したい」と希望する「美しく・豊かで・温かいまちを創る」こ

とであると思えます。

このためには常に皆さんと対話し、皆さんの声と想いをきちんと反映した施策を議会の側からも提案し、実現していく立法機関としての役割を果たしていくことだと考えております。その実現へ一歩でも二歩でも進んで行くため議員全員が常に自己研鑽に努め「市民の皆様信頼される、市民の皆さんとともにある議会」を目指しその先頭に立つていくことと強く心に刻んでおります。また議会運営に当たっては「和」を基本としていく所存であります。

市民の皆様これまでに倍する叱責とご鞭撻、ご協力を賜わりますようお願い申し上げます。年頭のごあいさつと議長及び副議長就任のあいさつとさせていただきます。

議会選出監査委員

松上 孝



謹賀新年

亀山市議会（議席順）

福 沢 美由紀
森 美和子
鈴木 達夫
岡本 公秀
伊藤 彦太郎
前田 耕一
中村 嘉孝
坊野 洋昭
宮崎 勝郎
片岡 武典
宮村 和典
服部 孝規
小坂 直親
松上 孝
竹井 道孝
池田 依子
大井 捷夫
豊田 勝行
水野 雪男
葛西 雪男
櫻井 清蔵
森 淳之祐

◎議員の年賀状は自粛します。公職選挙法の規定により、市議会議員として市内の皆様へ年賀状を出すことは自粛します。皆様のご理解をお願いします。



第一回臨時会

平成十九年第一回臨時会は、議長の招集請求により十一月十二日に開会され、議長及び副議長の選挙を行いました。その後、議会運営委員会委員と総務・教育民生・産業建設の各常任委員会委員を選任し、それぞれの委員会を開催して、正・副委員長の互選を行いました。また、組合議会議員等についても選挙しました。そして、議員の中から市長が選任する監査委員の選任について同意しました。各委員会委員等の構成は次のとおりです。

議会運営委員会(7人)

- 委員長 水野雪男
- 副委員長 小坂直親
- 委員 宮崎勝郎
- 〃 片岡武男
- 〃 竹井道男
- 〃 葛西豊
- 〃 森淳之祐

議会運営委員会は、地方自治法に基づき、条例で置くことができると定められ、議会運営の円滑を期するために設置された委員会です。

委員会は、次に掲げる事項に関する調査を行い、議案、請願等の取り扱いを協議します。

- 一 議会の運営に関する事項
- 二 議会の会議規則、委員会に関する条例等に関する事項
- 三 議長の諮問に関する事項



竹井道男 片岡武男 宮崎勝郎
葛西豊 小坂直親 水野雪男 森淳之祐

常任委員会

総務委員会(8人)

- 委員長 宮村和典
- 副委員長 伊藤彦太郎
- 委員 岡本公秀
- 〃 服部孝規
- 〃 松上孝
- 〃 池田依子
- 〃 大井捷夫
- 〃 豊田勝行



豊田勝行 岡本公秀 松上孝 服部孝規
大井捷夫 宮村和典 伊藤彦太郎 池田依子

総務委員会が所管する部署は、次のとおりです。
企画政策部、総務財政部、市民部、設計審査室、危機管理室、出納室、消防本部、選挙管理委員会、公平委員会、固定資産評価審査委員会、監査委員、他の常任委員会の所管に属しないこと。

議会の主な動き

- ※十一月※
- 4 日鈴鹿亀山地区広域連合議会定例会(鈴鹿市)
- 〃 神奈川県大和市議会視察来庁(議会運営)
- 5 日議員全員協議会・会派代表者会議
- 〃 日東海市議会議長会理事会(美濃加茂市)
- 10 愛知県豊田市議会視察来庁(産業誘致・まちづくり)
- 12 日長野県中野市議会視察来庁(企業誘致)
- 16 日三重県市議会議長会海外行政視察(25日まで)
- 21 日日中友好促進三重県市議会議員連盟訪中視察(27日まで)
- 22 日長野県千曲市議会視察来庁(企業誘致)
- 30 日三泗鈴亀農業共済事務組合議会定例会(菰野町)
- 31 日議会運営委員会・会派代表者会議
- ※十一月※
- 1 日全国高速自動車道市議会協議会理事会(東京)
- 2 日会派代表者会議
- 6 日北勢五市議会懇話会(亀山市)
- 7 日会派代表者会議
- 9 日全国市議会議長会評議員会(東京)
- 12 日第一回臨時会
- 〃 静岡県掛川市議会視察来庁(道路整備)
- 19 日産業建設委員会管内視察
- 20 日教育民生委員会管内視察
- 21 日総務委員会管内視察
- 26 日議会運営委員会
- 29 日議員全員協議会
- 30 日鈴鹿亀山地区広域連合議会臨時会(鈴鹿市)
- ※十一月※
- 3 日定例会閉会
- 10 日議案質疑
- 11 日一般質問
- 12 日一般質問・議会運営委員会
- 13 日産業建設委員会
- 14 日教育民生委員会
- 17 日総務委員会
- 19 日議会運営委員会・定例会閉会・会派代表者会議



竹井道男 坊野洋昭 鈴木達夫 福沢美由紀
水野雪男 片岡武男 森 美和子

委員 長 片岡武男
副委員 長 森 美和子
委員 福沢美由紀
委員 鈴木達夫
委員 坊野洋昭
委員 竹井道男
委員 水野雪男
教育民生委員会が所管する
部署は、次のとおりです。
保健福祉部、環境森林部、
医療センター、教育委員会

教育民生委員会 (7人)



森 淳之祐 櫻井清蔵 小坂直親 前田耕一
葛西 豊 宮崎勝郎 中村嘉孝

委員 長 宮崎勝郎
副委員 長 中村嘉孝
委員 前田耕一
委員 小坂直親
委員 葛西 豊
委員 櫻井清蔵
委員 森 淳之祐
産業建設委員会が所管する
部署は、次のとおりです。
産業建設部、上下水道部、
関ロツジ、農業委員会

産業建設委員会 (7人)

委員 前田耕一
委員 宮崎勝郎
委員 水野雪男
委員 葛西 豊

● 亀山市都市計画審議会 (4人)

委員 中村嘉孝
委員 宮村和典

● 亀山市国民健康保険
運営協議会 (2人)

議員 岡本公秀
議員 伊藤彦太郎
議員 宮崎勝郎

● 三泗鈴亀農業共済
事務組合議会 (3人)

議員 福沢美由紀
議員 鈴木達夫
議員 宮村和典
議員 竹井道男

● 鈴鹿亀山地区
広域連合議会 (4人)

他の議会の議員等

いずれの会派にも属さない議員	新和会	市民クラブ	緑風会	会派名
福沢美由紀、 櫻井清蔵	◎水野雪男、 岡本公秀、 大井捷夫	◎竹井道男、 前田耕一、 松上 孝、 葛西 豊	◎森淳之祐、 坊野洋昭、 宮村和典、 池田依子	◎は代表者 構成議員 (◎は代表者) ◎森淳之祐、森美和子 ◎坊野洋昭、宮崎勝郎 ◎宮村和典、小坂直親
	◎鈴木達夫、 中村嘉孝	◎伊藤彦太郎、 片岡武男、 豊田勝行		

議会の会派構成

◆ 第一回臨時会議案一覽 ◆ (議案第〇号 ↓ 議〇)

○ 同意した議案

議 68 亀山市監査委員の選任同意について
議員の中から市長が選任する監査委員に、松上 孝議
員を選任することに同意



編集委員会の委員は、
副議長を中心に各会派
から選出しています。
(写真右側より)
宮崎勝郎
水野雪男
池田依子
片岡武男

市議会だより
編集委員会

産業建設・教育民生・総務の

各常任委員会が管内を視察

十一月十九日から二十一日にかけて、各常任委員会は、それぞれの所管に属する施設等の現地視察を行いました。

産業建設委員会(11/19)

関宿温泉源泉地など

産業建設委員会は、各部長等から所管事務事業の概要説明を受け、午後から、東名阪自動車道亀山パーキングエリアに設置のスマートインターチェンジ整備工事現場、新名神高速道路及び関宿温泉源泉地を視察しました。

スマートインターチェンジ整備工事は、平成十九年四月から本格運用を開始し、誤進入車の解消や大型トレーラーの安全通行のため、全面的な改良工事が行われています。関宿温泉源泉地は、現在、関宿・周辺地域にぎわいづくり基本方針に基づき、地域関係者等が地域の課題や新たな活動推進について協議する場として、「関宿・周辺地域にぎわいづくり推進連絡会議」を設置し、現在、足湯整備の場所や規模、管理方法等について協議が進められています。



関宿温泉源泉地

教育民生委員会(11/20)

介護予防支援センターなど

教育民生委員会は、保育園 仮園舎建築現場、斎場建設用地、関中学校、関B&G海洋センター、刈草コンポスト化センター、川崎小学校学童保育所、フェロシルト搬出現場、医療センター、介護予防支援センターの九カ所を視察しました。

介護予防支援センターは、

高齢者の介護予防を図る拠点施設として、六十歳以上の一人暮らしの人、日頃一人で家にいることが多い人や外出することが少ない人で自力で動ける人がセンターに通所します。ここでは、簡単な体操や趣味活動などを行い、生き生きとした時間を過ごすことで高齢者の介護予防と家族の負担軽減を目的とする事業が実施されており、この事業は社会福祉協議会に委託し、十月現在、四十九人の方が登録されています。一回の利用負担金は五百円で、原則として通所可能な人が対象ですが、状況によって送迎も行います。川崎小学校学童保育所「あおぞらくらぶ」は、平成十九年四月に民設民営により、鈴鹿農協能褒野出張所の空き店舗を借りて開設しました。就労等により保護者が昼間家庭に不在となる児童に対して、生活の場を与え適当な遊びを指導し、児童の健全な育成を図るための事業です。定員二十人で十月末現在、十四人が登録し、平日は午後一時から午後六時三十分、休日等の土曜日、祝日、春・夏・冬休み期間は午前八時から午後六時



川崎小学校学童保育所「あおぞらくらぶ」

総務委員会(11/21)

市民協働センターなど

総務委員会は、市役所内にある行政番組送出室、市役所本庁耐震工事現場、市民協働センター、防災倉庫(本町三丁目)、消防本部、関消防署、鷺山ハイツを視察しました。市民協働センターは、平成十九年四月に市民活動の支援と協働の拠点として開所しました。センターの使用時間は午前九時から午後十時までで、

休館は年末年始のみであり、使用申込は六カ月前から予約が可能で、使用料は無料です。使用目的に応じて、一階は多目的ホールで講演会、展示発表会、会議等に利用ができ、パソコンコーナーも備わっています。二階には三十人程度の会議に利用ができる大会議室、十五人程度利用ができる第一・二会議室と和室(十畳)があり、印刷機やコピー機なども利用ができます。市民活動団体の会議・展示発表等情報の提供や各種講座を開催するなど月平均千六百人ほど利用されています。



市民協働センター

第三十五回三重県市議会議員会海外行政視察報告

小坂直親・宮村和典

海外行政視察主な視察都市(10月16日～25日)

- 16日 香港長期滞在型高齢者施設
- 17日 オークランド着
- 18日 タナーズ&グロワーズ社(野菜、果物、生花市場)
マヌカウ市役所(都市環境)
- 19日 ワイタケレ市役所(ごみ処理施設)
CCSオークランド(身体障がい者施設)
- 20日 ワイタケレリージョナルパーク・カツオ鳥コロニー
- 21日 メルボルン着
サニーリッジイチゴ農園
- 22日 モーランド市役所(高齢者食事サービス)
セレス環境パーク
シドニーへ移動
- 23日 ボタニー小学校(環境教育)
NSW州政府教育省(環境教育)
- 24日 財団法人自治体国際化協会
(オセアニアの福祉施策、自治体運営)
- 25日 シドニー出発 香港乗り継ぎ 中部国際空港

小坂直親

今回、三重県市議会議長会海外行政視察に副団長として、オセアニア地域の行政視察に参加いたしました。

今回の行政視察は、オゾン層破壊など地球環境問題に関して深刻な状況下にある地域での「環境対策への取り組み状況と実態」を主な視察目的としての参加でありました。

「環境対策への取り組み状況と実態」

オーストラリア政府は、二〇〇五年から二〇一四年までの「国連持続可能な開発のための教育の十年」とした国連決議に基づき、「オーストラリアの学校のための国家環境教育声明・持続可能な未来のための教育」を二〇〇五年発

表しています。この声明は、環境省と教育省が共同で作成したものでオーストラリア国内の全ての学校に配布され、教育カリキュラム作成者、教師、学校、地域社会の人々などが、環境やその中で生活を続けることの重要性について生徒たちに教える場合の最適なアプローチを示す手引きとなっています。

(NSW州の環境教育)

NSW(ニューサウスウェールズ)州は環境教育についての政策を、学校教育でどのように環境問題を学べるかを、学校の施設全体を使い、環境を壊さず・環境を守る方法を学べる教材を活用したカリキュラムを構築しています。教育省は、どのようにして生徒達が活用し学校がどう取り組むかを示した、サポートシステムを各機関の協力体制において確立しており、学校へ貸し出す教材も数多く準備されています。

また、ウェブサイトに全ての活動を発信し生徒達は学校がどれぐらいのエネルギーを使っているか環境調査などの活動を紹介し、すばらしい

取り組みをしている学校をケーススタディとして載せています。さらに、環境を破壊しない持続維持できる教材などの掲載も行っています。

教育省は、生徒達の取り組みが学校だけの取り組みで終わる活動ではなく一生続けていける人間社会生活へのヒントにつながることを望んでおり、自然の生態にどう取り組み、自然の生息調べ、生態系を学び、自然破壊の原因は何かを考えさせている。環境を守っていくためのプランを立てさせ調査を踏まえ、また、植物を植え付けていく取り組みの中から、今、地域環境で何が起きているか自分達がどのように取り組むべきかを結びつけ、教師には、各種の環境問題を統合できる活動を行うよう指導しています。

環境の教育は何が問題かを意識し改善するためのゴールの設定が大切であり、活動は指導要綱に結びつけ、生徒達の理解度の評価テストも実施しています。学校での環境問題に対する取り組みには限りがあり難しいところも多くあるが、生徒達が正しく環境問

題に取り組む教育施策が学校活動に反映される強い取り組みがみられました。



NSW州政府教育省

(環境と政策)

二〇〇六年国別環境パフォーマンスランキングで一位のニュージーランドにおける森林環境対策を深く調査いたしたくワイタケレ・カウリの森の視察を行ったが、森の案内担当の職員が休みの日であったため、より詳しい話を伺えなかったことが非常に残念でした。
しかし、国別環境パフォー

マンズの評価に当たったエール大学環境法政策センター所長で環境法政策教授の **Eric C. Esly** 氏が『政策の選択が重要だ。』と述べているように、私たちの生活環境の改善・向上を目指すためには地球環境に対する配慮が重要であり、更に実現するためには良いがバナンスによる政策が大切であることを実感いたしました。



ボタニー小学校

(今後の課題)

子ども達が意欲的な表情を持ち環境教育を学ぶ体制づくり、また、環境教育をする教

師サイドへのサポート体制の充実対策に取り組むことが重要であり、そのためには良いガバナンスによる政策を創り上げ市民生活の向上に努めることが今後の課題であります。以上、今回の視察では全体を通して貴重な経験を得る事ができ、特に環境への取り組み現状を直視体感できたことは大変有意義で大きな収穫でありました。今後の行政施策課題として市民の生活環境対策に取り組んでまいります。亀山市が国内・海外からも視察要望があるような魅力的な市民生活に向けさらに議員として取り組んでまいります。最後に、若輩の私が副団長の大役を仰せつかりましたが団員の皆様のご協力により成果を成し遂げることができました。また元気に帰国できましたことを感謝申し上げますとともに現地でお世話になった多数の関係者の方々へ心より謝意を表する次第であります。

宮村和典

三重県市議会議長会海外行政視察に参加し、ニュージー

ランド、オーストラリアの各都市を訪問しました。

政治、経済ともグローバル化が叫ばれている中で、我国の現実の姿がどの位置にあるのか、何が必要なのかを視点に農産物の流通、地方自治体の運営、環境及び福祉について、その概要を報告します。

ニュージーランドのオークランド市にある、ターナーズアンドグロウワーズ社が経営する野菜、果物、生花市場は、ニュージーランドで最大規模の市場で、百年近くの歴史を持つ企業であります。

この国は食料自給率が高く、流通システムや品質管理の先進的施設を視察できました。市場には生産者が直接野菜を持ち込み、各野菜にはタグラベルを取り付け、ラベルには生産者名、品質を示すランクが付けられます。そのランクとしてタグ(Tag) 一は最高級の品質の作物、二は良好な品質の作物、三は最低基準の品質の作物となっております。Tagは生産者が自由にランク付けしていますが、品質とTagランクが合っていないと苦情がでることから、独自の基準が設定されています。

野菜等の価格の決定は需要と供給のバランスに応じて、80%が当日、残りの20%は事前交渉で決まり「競り」は行わず、価格の7〜10%が会社の手数料となっております。作物は当社のトラック輸送システムにより全国に配送され、大手のスーパーマーケットやチェーン店に60%、個人経営の八百屋に40%を卸しています。

市民構成となっていました。最近の人口増加率はニュージーランドで第一位を誇り、年間一万人の増加とのことです。

このような状況下で自治体運営がどのように取り組まれているか興味を持って視察しました。

行政の組織機関は国(中央政府)と広域自治体と市(地方自治体)で、我国のような県はなく市の行政権限は強いものとなっております。

市の年間・長期計画、予算案等は、法律により地域住民との話し合いが義務つけられており、また、先住民のマオリ族の意見を聞くプロセスもありました。

マヌカウ市の自治体運営

オークランド市に隣接するマヌカウ市は、人口約三十三万五千人でニュージーランドの各都市と比べ若年層が多く二十五歳未満の人口が40%を占めていました。また、全人口の約35%が先住民のマオリ族で、その他、百六十五カ国からの移民者も多く多民族な

昨年、市の組織のスリム化に取り組み、事務手続きの効率化を図るなど行政改革が推進されていきました。また、公共サービス事業のうち水道やごみ収集などは、民間会社や市が出資する会社に業務委託が行なわれています。

特にごみの減量化は大きな課題で、法律で減量の数値目標を立て、その成果について政府の監査を受けることが定められています。

市の行政運営は、先住民マオリ族や地域住民の意見を聞きながら進められ、その声を大切にしています。



マヌカウ市役所

ワイタケレ市ごみ処理施設

ワイタケレ市は人口十九万四千七百人で、地球温暖化防止対策として、市民へのゴミ処理の教育、啓発活動への取り組み及びゴミ減量化について調査のためゴミ処理場を視察しました。

市民のボランティアにより選ばれた道路に、十二年間で四千本以上の木が植えられ、「ワイタケレを美しく保とう」を合言葉にボランティア活動が行われていました。啓発活動では、ゴミを発生さ

せない、ゴミを無くすことを目的に一カ月間をかけて、市内の各公園や小川、自然保護区、校庭、道路などをボランティアが清掃を行っています。

ごみ処理施設では、戦略として、五つの「R」（再利用・リサイクル・削減・還元・余剰）を掲げて、埋立地へ運び込まれるゴミの70%を占める資源ゴミや生ゴミをリサイクルしています。一九九九年には小中学生などに教育的プログラムを提供する学習センターを設立して、再資源化するためミミズコンポストや普通コンポストの作り方などを指導しています。また、ごみ処理場のツアーを行って一年間に約五千人の児童生徒が環境学習に訪れています。

不法投棄をした場合には罰金制度により、四百ニュージーランドドル（日本円で約四万円）が課せられます。ゴミをはじめとした環境意識は子どもの中から徹底的に教育が行なわれていました。



ワイタケレ市ごみ処理施設

CCSオーケランド

（障害児者を支援する団体）

CCSは七十八年前に設立された非営利団体でニュージーランド全国に十六支局あり、スタッフは七百人（常勤五百人、パートに二百人）ほどであります。この団体は、身体障害者と地域社会との共存を理念として、「障害者と共により良い未来」をスローガンに、個人としての独立をサポートし、家族と共に地域社会との共存を図るために支援をしています。

地域で自立していくための支援体制について、障害者と話し合いながらニーズを探り、地域社会のバリアフリー化、教育支援、就職支援、生活支援、住宅のバリアフリー化などの支援や障害者に代わって行政へ働きかけなど様々な活動が行われています。

団体の活動費は、政府からの補助金65%（二百万ドル）と残りの35%は自分達で資金集め活動を行いまかっています。

CCSの支援活動について、第三者機関から評価や障害者からのアンケートなどをもとにして、より良い支援サービスを提供するように取り組んでいました。

障害者一人一人のニーズを聞きながらサポートし、障害者の方も社会の一員であり、そのための環境を創る活動に対して深く感銘しました。

モーランド市 高齢者食事サービス施設

メルボルン市内から北へ八キロ先にモーランド市がある。人口は十四万六千人で、イタリア、ギリシャ等他民族が多く、内六十五歳以上は二万二

千人であります。市・州・連邦政府が一体となって活動している高齢者向け食事サービスの運営を調査しました。

このセンターでは年間二十五万食（一日八百食）が作られ、スタッフ三十名で配食されていました。同様の施設は州に七十九カ所存在しており官の支援が手厚く充実しています。

食事のメニューは、毎日五種類で、スープ、メイン料理（イギリス系・イタリア系）、デザート、サプリメントなどの献立で、配達は、毎週月曜日から金曜日まで配食され、ほとんどのスタッフは自家用車を使用していました。配食時に高齢者の身体・精神的なチェックをするモニターとしての役目もあります。

費用は一食につき十四ドルで個人負担は五ドル四十七セント残りは市が負担をしています。

また、ホームケアとして、家庭での掃除、洗濯なども行われていました。

最後に多民族が協働し、若さあふれた二カ国を訪問でき、自分（議員）なりに成果をあげられたことに三重県市議会議長会に感謝をいたします。

日中友好促進三重県市議会議員連盟

第二十八次訪中使節団行政視察報告

訪中使節団主な視察都市（10月21日～27日）

- 21日 上海浦東開発区
- 22日 許昌市議会・許昌市政府との交流
- 23日 苗木生産地・市場、許昌市実験中学高等学校
- 24日 少林寺武術学校、河南省人民政府訪問
- 25日 鄭東新区、鄭州市汚水処理場
- 26日 中日友好協会
- 27日 北京出国 中部国際空港

岡本公秀

入国した都市は上海である。かつての西欧列強の租界にある歴史的建造物と、その対岸の近代的高層建築物群との対比は隔世の感がします。人は多く、物売りも多く、怪しげな客引きも多く、資本主義的中国の典型である。

翌日に向かったのは三重県と友好提携している河南省です。人口九千七百万人。河南省の許昌市を訪問しました。人口は四百五十万人。三国志時代の魏の都です。農産物の豊富な所でビルも多く道路も広い。許昌市人民代表主任との懇談における、中国側の発言は、概ね以下の内容であった。環境問題や先端技術省エネ管理技術で日本に学ばべきである。また日本と中国は長い友好の歴史がある一方近代では一時そうではなかったが現代では平和と友好が大切である。中国は戦争を起こさない。日本の軍国主義を心配している。植林事業の援助には感謝をしている。国内格差をなくすため一層の経済発展を目指している等でした。夜ホテルでテレビを見ていると、悪い日本軍が中国共産軍にやつつけられるという番組を放映していました。

許昌市実験中学高等学校を訪問しました。この学校はハイレベルのモデル校で、卒業生の三分の二は大学進学するそうです。ロビーには進学者名と進学先、及び成績優秀者の名前が掲示されていました。また許昌市は花や苗木の生産地でもあり、中国は今植樹が盛んで、生産者も潤っているようです。



許昌市実験中学高等学校（理科の実験授業）

次に河南省省都の鄭州市を訪問しました。人口九百万人。許昌市から鄭州市への道路沿いには伝統的な中国人の生活が見受けられました。新と旧が混在している国です。少林寺近辺には武術学校が八十余あります。この学校では一般教育と共に武術も教え、生徒数は六万人とのことです。翌日は鄭東新区を視察しま



少林寺武術学校

このマンションは投機の対象でもあるそうです。続いて鄭州市汚水処理場を見学しました。市内に三方所ある処理場の一つで日本の円借款で建設された施設です。一日十万吨の処理能力があり処理水は川に放流されています。この水を近くの住宅団地に引き入れ臨水団地として売り出しているのには感心さ

せられます。最終日は、北京にて中日友好協会本部を訪問、懇談をいたしました。現在の中国政府は経済発展により格差を縮小し環境保護と調和社会を目指すとすという政策を掲げています。また国家の威信をかけて北京オリンピックに取り組んでいるように見受けられました。中国の今後の動向は東アジアに大きく影響を与え目が離せせない国であるとの印象を受けました。有意義な訪問であったと、お世話になった方々に感謝を申し上げます。



鄭州市 鄭東新区の近代的建物